

## 第四章 費用（認証取得までの費用・審査費用・コンサルタント利用状況）の現状

### 4.1 はじめに

本章では、全国の大学における審査費用の現状について述べる。

### 4.2 目的

本章の目的は、審査費用の現状を明らかにする事を目的とする。

### 4.3 研究方法

本章では、インターネット上に公開されている HP アンケート調査、審査機関への電話ヒアリングを元に、現状を把握する。（アンケート調査方法の詳細は第二章を参照。）

又、後述の項目に対して予想をした。予想をまとめたものを表 4-1 に示す。

表 4-1 費用（審査費用・認証取得までの費用・コンサルタント利用状況）の現状予想

大分類	項目	予想
認証取得までに要した費用	大学の属性別に見た費用	理系の大学が文系の大学より多い
	学生の位置づけ別に見た費用	全て学生を構成員に含める大学が最も高い
	審査機関別に見た費用	審査機関により、値段設定の平均金額の高低がある
審査について	大学の属性別に見た審査費用	理系の大学が文系の大学より多い
	学生の位置づけ別に見た審査費用	全て学生を構成員に含める大学が最も高い 「全ての学生が準構成員の大学」より「一部の学生が構成員の大学」の方が高い 学生を構成員・準構成員に含めない大学が最も
	学生を構成員に入れるか否かでどの程度審査費用が違うのか(想定大学で比較)	学生数に審査費用が比例する
	審査機関別に見た審査費用	審査機関により、値段設定の平均金額の高低がある
	審査について思うこと	審査の必要性を感じず、内部監査だけでもシステムの継続的改善は出来るの回答が多い
コンサルタント利用状況	コンサルタント利用状況	活動を継続的に改善させるために、コンサルタントを利用する大学は多い

### 4.4 結果及び考察

#### 4.4.1 審査費用の全体傾向と審査費用の概算方法について

アンケート調査より得られた費用（認証取得までの費用・審査費用）の全体傾向を、図 4-1 に示す。

図 4-1 より、認証取得までの費用と審査費用は、大学によって大きく差がある事がわかった。

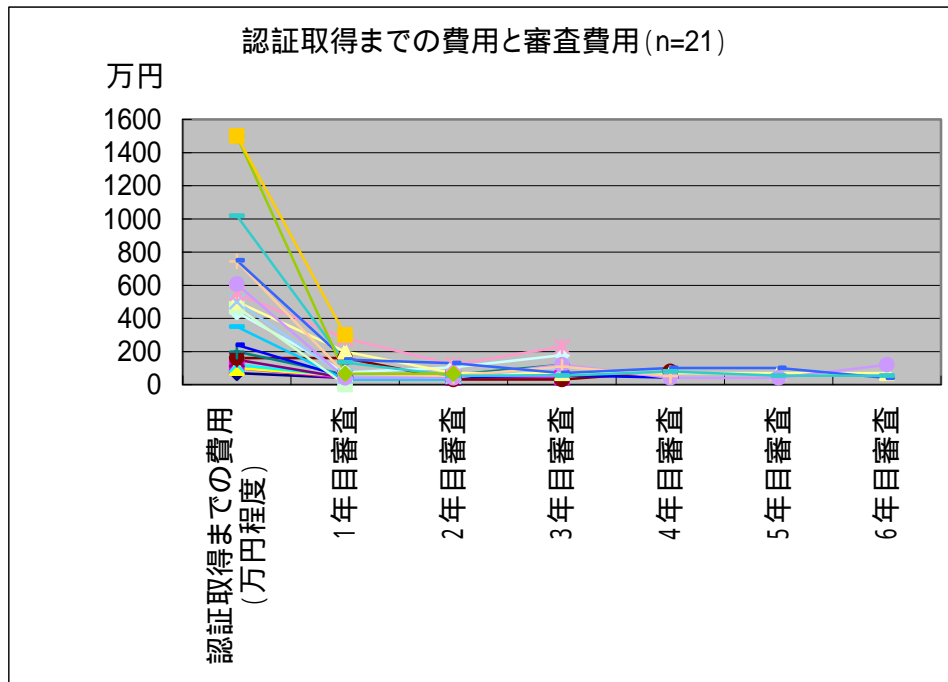


図 4-1 認証取得までの費用と審査費用

(詳細)

認証取得までの費用	: 70 万円 ~ 1500 万円
1 年目審査の費用	: 30 万円 ~ 300 万円
2 年目審査の費用	: 30 万円 ~ 130 万円
3 年目審査の費用	: 30 万円 ~ 230 万円
4 年目審査の費用	: 42 万円 ~ 100 万円
5 年目審査の費用	: 32 万円 ~ 100 万円
6 年目審査の費用	: 30 万円 ~ 120 万円

審査費用の概算料金については、明らかになっている審査機関は JACO と ISC であった。その他の審査機関は、料金見積もり書が公開されていた。

・ JACO の審査費用概算

初回審査と更新審査では人数規模による基本料金を設定し、審査費用は、人員規模と環境負荷による審査員の人数と日数で決まる。その他の料金は審査地への移動料金・登録証発行料金・JACO 登録維持料金・認定機関「JAB」登録維持手数料・認定機関「UKAS」登録維持手数料・消費税・旅費があった。(付録 1.1 参照)

・ ISC の審査費用概算

初回審査では契約基本料金、サーベイランス審査では準備及びまとめ料、更新審査では更新契約基本料を、それぞれ従業員数による設定をしている。審査料は環境負荷と従業員数による審査員の人数と日数で決まる。その他の料金は登録料・登録証発行料があ

った。(付録 1.2 参照)

審査費用の概算方法は「人員規模と環境負荷による計算」という点では共通しているが、料金設定が違う事がわかった。又、その他の料金や基本料金等も違う事がわかった。この2つ以外にも審査機関はあるので、各審査機関によって違いが見られる事が考えられる

#### 4.4.2 認証取得までに要した費用

アンケート調査より得られた「認証取得までに要した費用」を図 4-2 に示す。

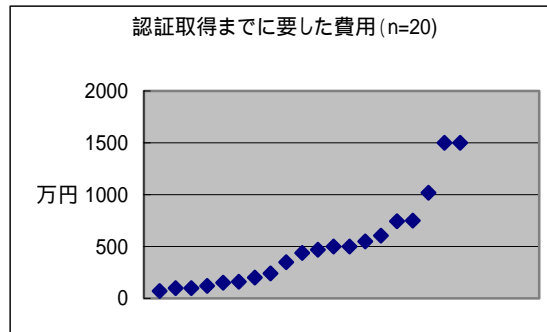


図 4-2 認証取得までに要した費用

図 4-2 より、大学によってばらつきがあったので、「属性別」「学生の位置づけ別」「審査機関別」に分けて分析した。

##### 4.4.2.1 大学の属性別に見た費用

認証取得までに要した費用を大学の属性別に整理した。大学の属性別の費用を図 4-3 に示す。属性の分類は 4.4.3.2 大学の属性別に見た審査費用の欄を参照。

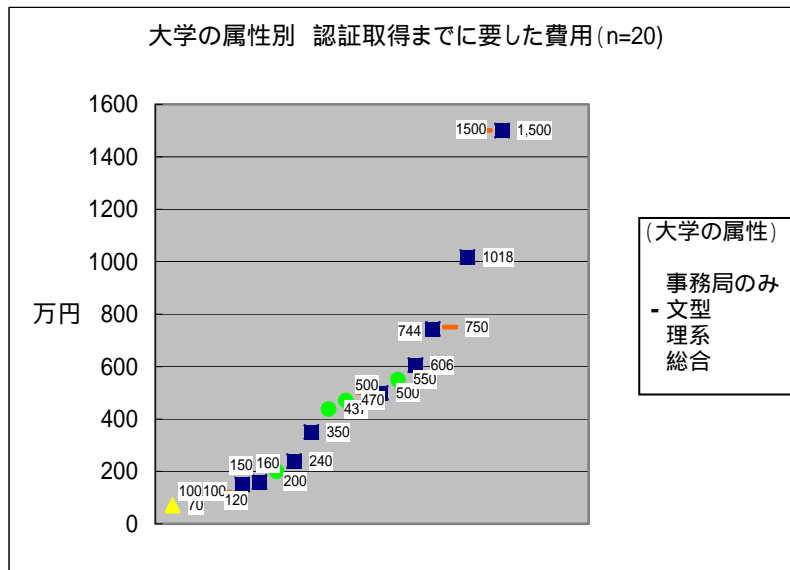


図 4-3 大学の属性別の認証取得までに要した費用

図 4-3 より,事務局のみでの認証取得をした大学では 70 万円と一番安い事がわかった。又,文型学部のみ有る大学では 100 万円～1500 万円,理系学部のみある大学では 150 万円～1500 万円と,大学によって大きな差があることがわかった。総合大学(文型学部と理系学部両方ある大学)では,200 万円～550 万円の間である事がわかった。

審査費用は組織の環境負荷の度合いによって変わる(付録 1.1JACO:審査料金(1),付録 1.2 ISC:審査登録料金について(1),付録 1.3 ISC:審査登録料金について(2)(3),付録 1.4 LRQA JAPAN: 審査見積依頼書(3),付録 1.5 JICQA: マネジメントシステム 初回審査登録費用早見表,付録 1.6 JCQA:環境マネジメントシステム審査費用見積依頼書,付録 1.10 JQA:見積作成依頼書を参照)ので,理系の大学の方が,薬品等環境に影響を与えるものが多いので審査費用も高くなると予想していたが,認証取得するまでの費用と,大学の属性はあまり相関が見られなかった。人数による違いもしくは,審査機関別の諸費用(1.1JACO:審査料金(1)参照)が考えられるが,全ての審査機関での料金体系が明確ではない為,明らかにする事はできなかった。

#### 4.4.2.2 学生の位置づけ別に見た費用

認証取得までに要した費用を大学の属性別に整理した。学生の位置づけ別の費用を図 4-4 に示す。

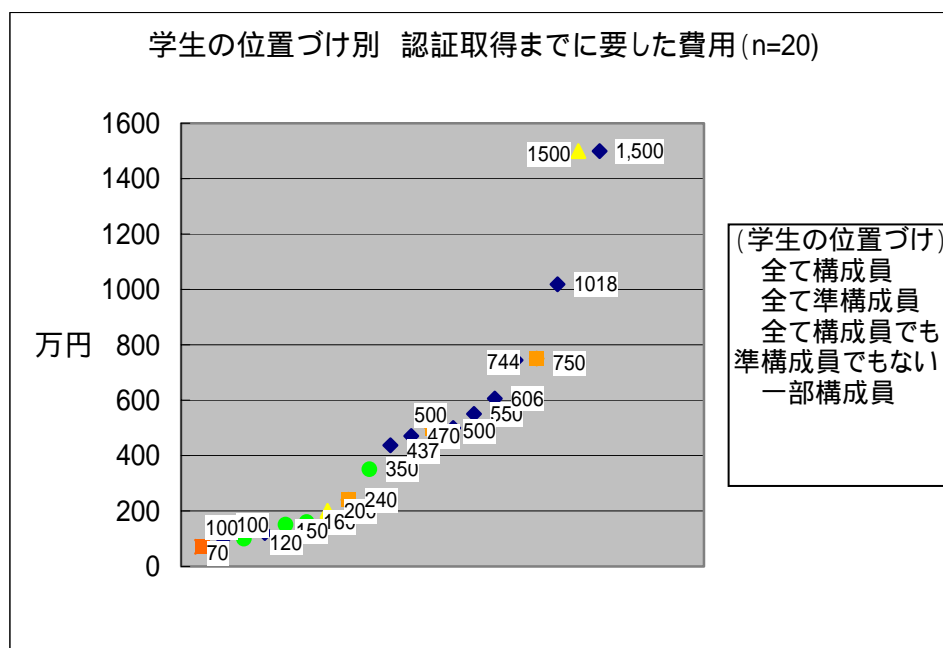


図 4-4 学生の位置づけ別の認証取得までに要した費用

図 4-4 より,全ての学生を構成員としている大学では,160 万円・1500 万円,全ての学生が構成員でも準構成員でもないとしている大学では 70 万円～750 万円と,大学によって大きな

差がある事がわかった。又、全ての学生を準構成員とする大学では、100万円～1500万円と、大学によって差があるものの、437万円～744万円に集中している事がわかった。学生の一部を構成としている大学では、100万円～350万円である事が分かった。

学生全てが構成員である大学が最も高いという予想は予想通りであった。又、400万円以上の大学の構成を見ると、ほとんど「全て準構成員」「全て構成員でも準構成員でもない」大学で、「学生を構成員に入れると審査費用の問題がある」という現状がよく分かった。(図3-21 全ての学生を準構成員に位置づけた理由と図3-22 全ての学生を「構成員でも準構成員でもない」に位置づけた理由を参照)

#### 4.4.2.3 審査機関別に見た費用

認証取得までに要した費用を審査機関別に整理した。審査機関別の費用を図4-5に示す。図4-5より、各審査機関別の認証取得までにかかる費用は以下の通りである事がわかった。

(財) 日本規格協会 JSA	...160万円	500万円 <sup>(1)</sup>	1500万円 <sup>(1)</sup>
(株) 日本環境証人機構 JACO	...100万円 <sup>(1)</sup>	200万円	744万円
	1018万円	1500万円	
岐阜県公衆衛生検査センターGRCA	...120万円	750万円 <sup>(1)</sup>	
ロイド・レジスター(株)LRQA	...606万円 <sup>(2)</sup>		
JUSE-ISO	...550万円 <sup>(1)</sup>		
(財) 日本品質保証機構 JQA	...100万円	500万円 <sup>(1)</sup>	
ピーエスアイ ジャパン(株)	...437万円	470万円	
(財) ベターリビング BL-QE	...240万円	350万円 <sup>(1)</sup>	
日本検査キューエイ(株)(JICQA)	...150万円		
日本化学キューエイ(株)(JCQA)	...70万円		
(1) コンサルタント費用を含む			
(2) コンサルタント費用460万円を含む			

審査機関により、値段設定の平均金額の高低があると予想していたが、コンサルタント費用が不明である事と、同じ審査機関でも各大学によって費用が様々であったので、予想とは違う結果となった。

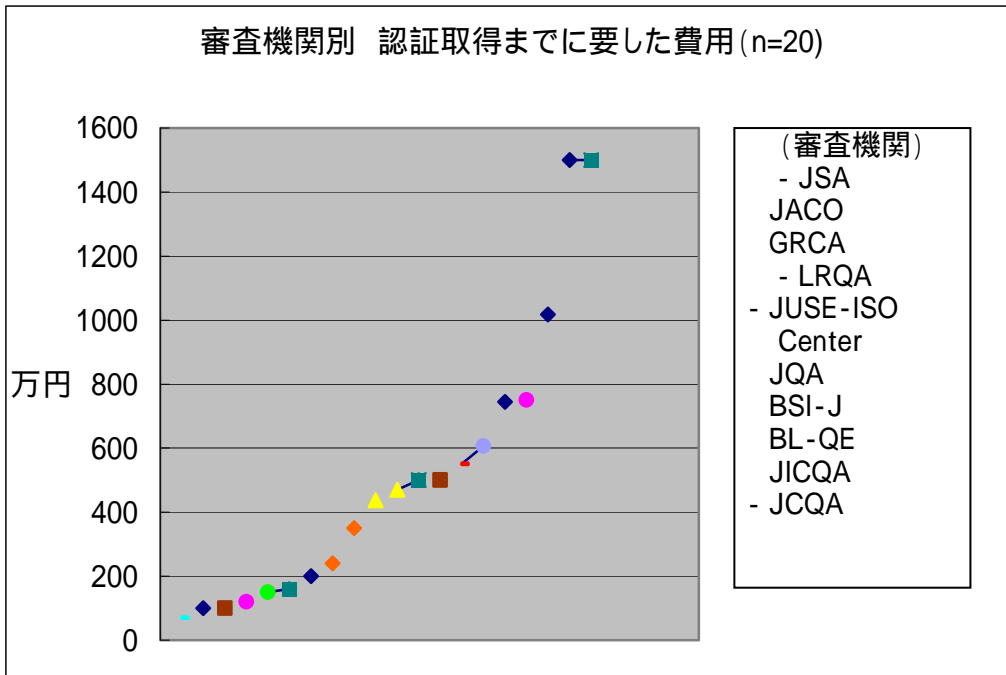


図 4-5 審査機関別の認証取得までに要した費用

#### 4.4.3 審査費用

##### 4.4.3.1 審査費用の全体傾向

アンケート調査により得られた審査費用の全体傾向を図 4-6 に示す。

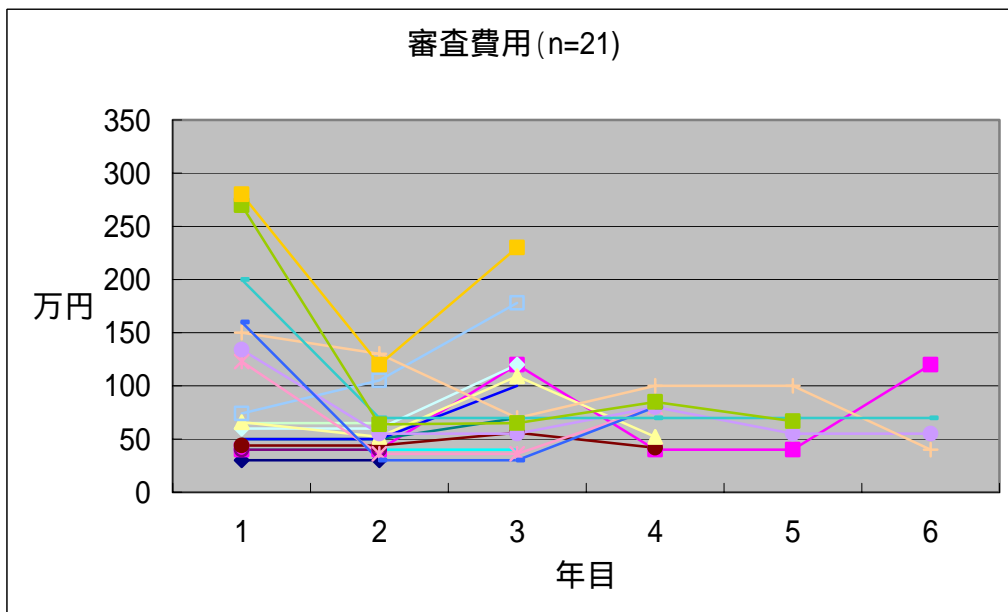


図 4-6 審査費用の全体傾向

図 4-6 より、一年目から 2 年目にかけて大きく費用が減少する大学が 35%、3 年目に審査費用が増加する大学が 26%、あまり費用が変化しない大学が 5%、その他の大学が 34%ある事がわかった。

#### 4.4.3.2 大学の属性別に見た審査費用

審査費用を大学の属性別に整理した。大学の属性別の費用を図 4-7～図 4-10 に示す。理系学部とは「工学系、薬学系、情報系、環境生態系」の学部のみを含む大学で、文型学部はそれら以外の学部を含む大学とした。総合大学は、理系学部と文型学部両方を含む大学とした。事務局のみとは、事務局のみで認証登録をしている大学の事を指す。

- ・ 図 4-7 より、理系学部の大学の内、
  - 「3 年目の費用があがる大学」は 44%あり、費用は 44～120 万円
  - 「1 年目から 2 年目にかけて大きく費用が下がり、4 年目の費用があがる大学」は 22%あり、費用は 30～160 万円
  - 「1～2 年目、5～6 年目の費用があまりかわない大学」は 34%あり費用は 30～40 万円である事がわかった。
- ・ 図 4-8 より、文系学部の内、
  - 「1～2 年目にかけて費用が下がる大学」は 43%あり、費用は 40～270 万円
  - 「3 年目の費用があがる」大学は 19%あり、費用は 50～70 万円
  - 「1～3 年目の費用がかわらない」大学は 19%あり、費用は 40 万円
  - 「1 年目の費用が 300 万円」の大学は 19%である事がわかった。
- ・ 図 4-9 より、総合大学の内、
  - 「1～2 年目にかけて費用が下がり、3～4 年目で費用があがる大学」は 50%あり、費用は 36～280 万円
  - 「1～3 年目にかけて費用が上がる大学」は 50%あり、費用は 60～178 万円
- ・ 図 4-10 より、事務局のみの大学は、1～2 年目の費用が変わらず、費用は 40 万円である事がわかった。

大学の属性が違う事によって生じる審査費用の差は以下の通りである事がわかった。

理系学部のみ	の大学	： 30 万円～160 万円
文系学部のみ	の大学	： 40 万円～300 万円
総合大学		： 36 万円～280 万円

予想に反し、理系学部のみ大学よりも文型学部のみ大学の方が高かった。ゆえに、学部構成と審査費用は大きな関連は見られない事がわかった。人数の違いが原因であると考えられる。

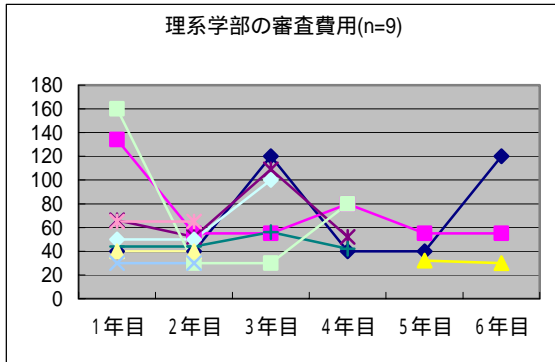


図 4-7 理系学部の審査費用

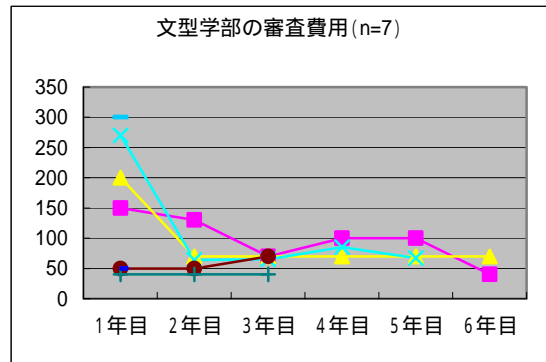


図 4-8 文型学部の審査費用

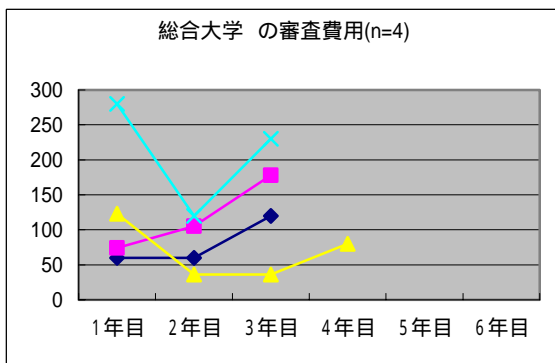


図 4-9 総合大学の審査費用

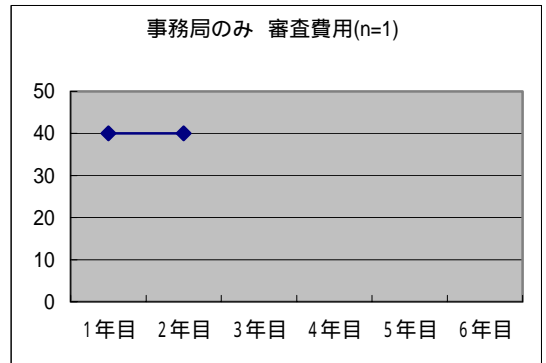


図 4-10 事務局のみの審査費用

#### 4.4.3.3 学生の位置づけ別に見た審査費用

審査費用を学生の位置づけ別に整理した. 学生の位置づけ別の審査費用を図 4-11 ~ 図 4-12 に示す.

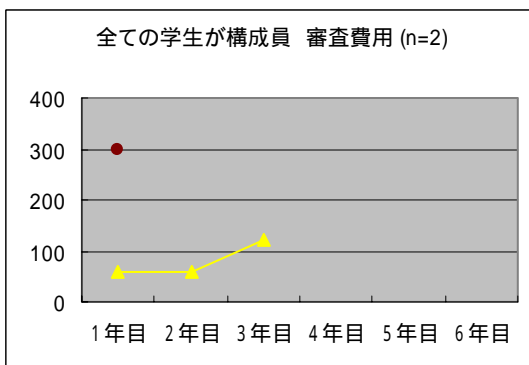


図 4-11 審査費用：全ての学生が構成員の場合

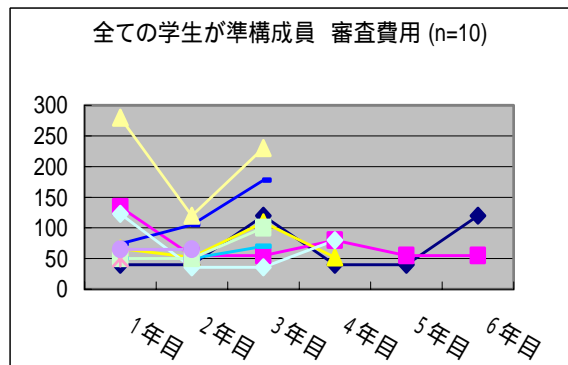


図 4-12 審査費用：全ての学生が準構成員の場合



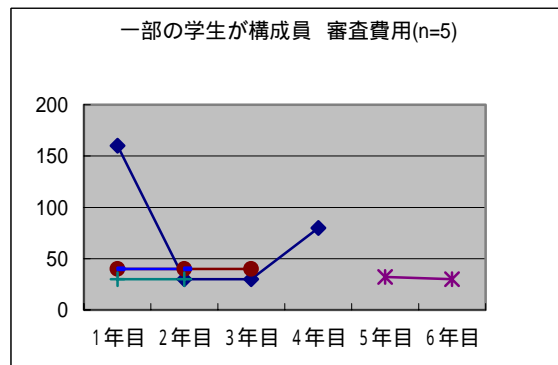
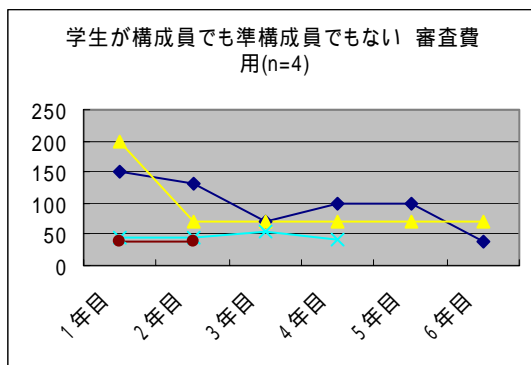


図 4-13 審査費用：学生が構成員でも準構成員でもない場合 図 4-14 審査費用：一部の学生が構成員の場合

図 4-11 ~ 図 4-14 より、

- ・全ての学生が構成員の場合の審査費用は、60 万円 ~ 120 万円の大学が 50%、300 万円（1 年目）の大学が 50% ある事がわかった。
- ・全ての学生が準構成員の場合の審査費用は、40 ~ 134 万円の大学が 80% と一番多く、74 ~ 178 万円の大学が 10%、120 ~ 280 万円の大学が 10% ある事がわかった。
- ・全ての学生が構成員でも準構成員でもない場合の審査費用は、40 ~ 56 万円の大学が 50%、40 ~ 200 万円の大学が 50% ある事がわかった。
- ・一部の学生が構成員の場合の審査費用は、30 ~ 40 万円の大学が 90%、30 ~ 160 万円の大学が 10% ある事がわかった。

学生の位置づけによって生じる審査費用の差は以下の通りである事がわかった。

全ての学生が構成員	: 60 ~ 300 万円
全ての学生が準構成員	: 40 ~ 280 万円
全ての学生が構成員でも準構成員でもない	: 40 ~ 200 万円
一部の学生が構成員	: 30 ~ 160 万円

予想に反して、「全ての学生が構成員」の大学と「全ての学生が準構成員」にあまり差が見られなかった。又、「全ての学生が準構成員」の大学より「一部の学生が構成員」の方が安い事も予想に反した。「全ての学生が構成員でも準構成員でもない」が一番安かった事は予想通りだった。学生の位置づけと審査費用の関係は、ばらつきがある事がわかった。大学の職員の数の差が原因の一つとして考えられる。

ここで、人員規模の違う大学を 2 つ想定し、学生を構成員に入れるか否かでどの程度審査費用が違ってくるかを検証した。審査機関は料金の概算方法が公開されていた JACO に想定した。（付録 1.1 を参照）審査の段階は初回審査とした。

想定条件は以下の通りである。

A 大学

職員数 200 人 学生 2000 人 環境負荷 小

審査機関から大学までの移動時間 3 時間

B 大学

職員数 6000 人 学生 54000 人 環境負荷 小

審査員の現地までの移動時間 3 時間

計算方法は以下の通りである。

(1) 審査工数 (人日)

公開されていたもの

大学の学生を含めた場合の審査工数はホームページには記載されていなかった為、直接 JACO に問い合わせた。

(2) 環境マネジメントシステム審査の計画作成及び報告書作成等

・初動審査 (現地審査)

・本審査 (現地審査)

18000 円 × 審査工数

(3) 審査地への移動料金

6000 円 × 3 時間 × 審査員数 (審査工数)

(4) 登録証発行料金

・ JACO 登録維持料金

・ 認定機関「JAB」登録維持手数料

・ 認定機関「UKAS」登録維持手数料

・ 旅費

公開されていたもの

旅費については社内規定であった為、想定の中では 0 円として統一。

以上を踏まえた想定結果を表 4-2 に示す。

表 4-2 想定した大学における初回審査費用の違い

	構成員の属性	人員規模	環境負荷	審査工数 (人日)	計画作成、報告書作成等 ・初動審査 ・本審査	審査地への移動料金 (3 時間と仮定)	登録証発行料金 JACO登録維持料金 JAB登録維持手数料 UKAS登録維持手数料	計
A大学 学生2000人 教職員200人	学生+教職員	800	小	10	141万7500円	18万円	12万6千円	156万1500円
	教職員のみ	200	小	7	99万2250円	12万6千円	12万6千円	124万4500円
B大学 学生54000人 教職員6000人	学生+教職員	22000	小	22	311万8500円	39万6千円	12万6千円	364万500円
	教職員のみ	6000	小	17	240万9750円	30万6千円	12万6千円	284万1750円

学生は週に3日・4時間大学にいと想定しているので、実際の人数 × 3 (日) / 7 (1週間) × 4 (時間) / 8 (時間) で計算

表 4-2 より

A 大学で構成員に学生を含めた場合は 156 万 1000 円、構成員に学生を含めない場合は 124 万 4500 円であり、差は 31 万 7000 円である事がわかった。B 大学で構成員に学生を含めた場合は 364 万 500 円、構成員に学生を含めない場合は 284 万 1750 円であり、

差は 79 万 8750 円である事がわかった。よって、人員規模が一桁増加する事で審査費用も一桁増加すると予想していたが、実際は学生の人数に審査費用が比例しない事がわかった。学生を構成員に入れるか否かをもう一度金額を考慮した上で検討する事を提言したい。

#### 4.4.3.4 審査機関別に見た審査費用

アンケート調査によって得られた学生の審査機関別に見た審査費用を図 4-15～図 4-24 に示す。

図 4-15～図 4-24 より、審査機関の審査費用は、4 つに分類できる事がわかった。

「3 年目で料金が 1 年目の約 1.5～3 倍上がる」

BLQE (30 万円～56 万円) BSI-J (74 万円～178 万円) JQA (40 万円～100 万円)  
LRQA (40 万円～120 万円)

「2 年目で料金が 1 年目の約 1/3 倍下がる」

JSA (30 万円～270 万円)

「2 年目で料金が約 1 年目の約 1/3 倍下がり、3 年目で上がる」

JUSE-ISO (120 万円～280 万円)

「混合 (3 年目で料金が上がる・2 年目で料金が下がる)」

GRCA (40 万円～150 万円) JACO (36 万円～123 万円)

JCQA (1～2 年目 40 万円) と JCIQA (5～6 年目 30 万円～32 万円) については、1～2 年目又は 5～6 年目のデータしかなかった為、上記の分類に当てはめることはできなかった。

認証期間ごとに費用をみると、ほぼ審査機関によって大きなずれが見られない。サンプルの数が十分ではないデータも含まれるが、審査費用は審査機関によってある程度違いが生じる事が言える。

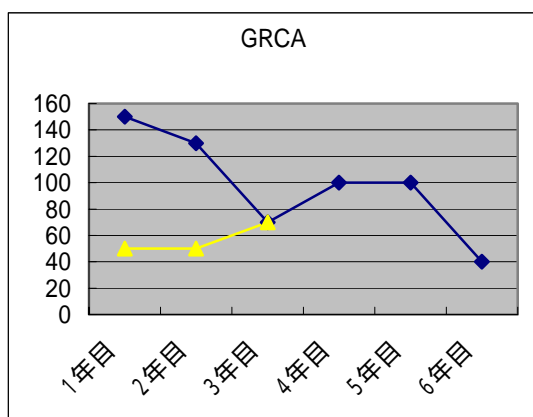


図 4-15 GRCA の審査費用

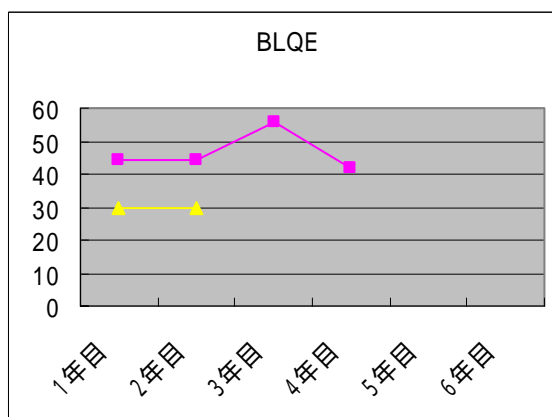


図 4-16 BLQE の審査費用

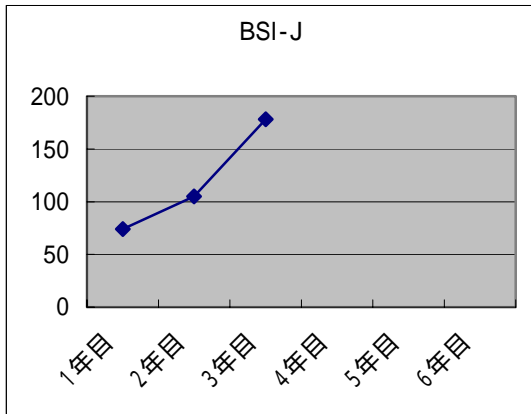


図 4-17 BSI-J の審査費用

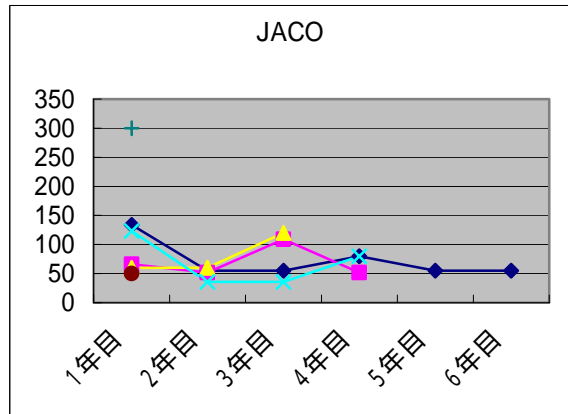


図 4-18 JACO の審査費用

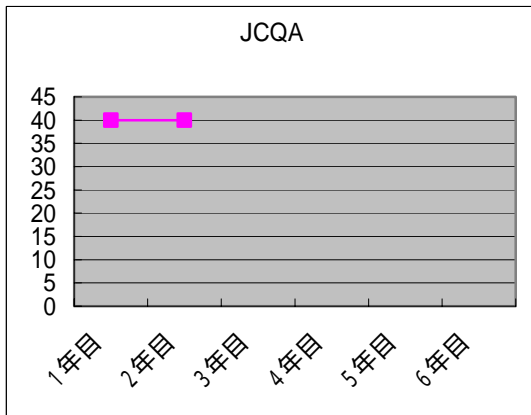


図 4-19 JCQA の審査費用

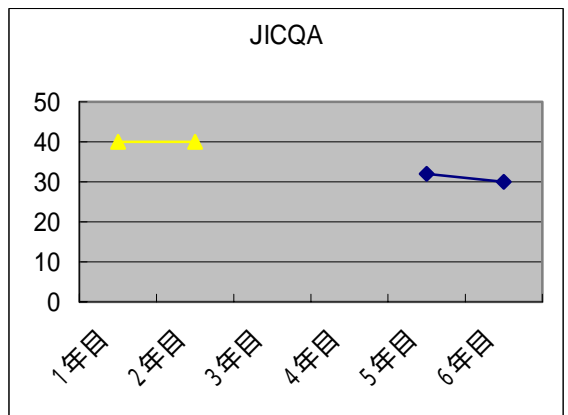


図 4-20 JICQA の審査費用

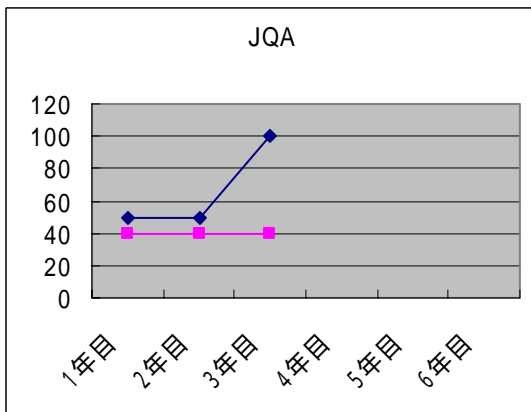


図 4-21 JQA の審査費用

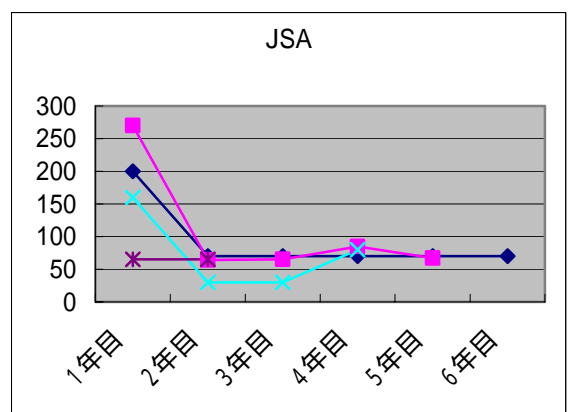


図 4-22 JSA の審査費用

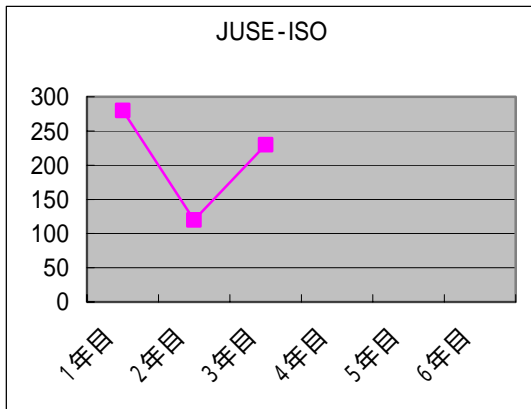


図 4-23 JCIQA の審査費用

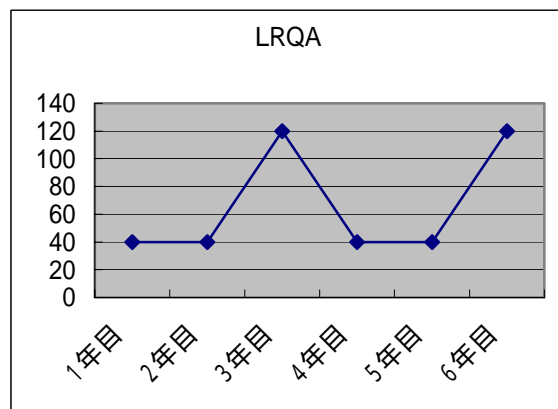


図 4-24 JCIQA の審査費用

#### 4.4.4 審査について思うこと

アンケート調査により得られた「審査について思うこと」を図 4-25 に示す。

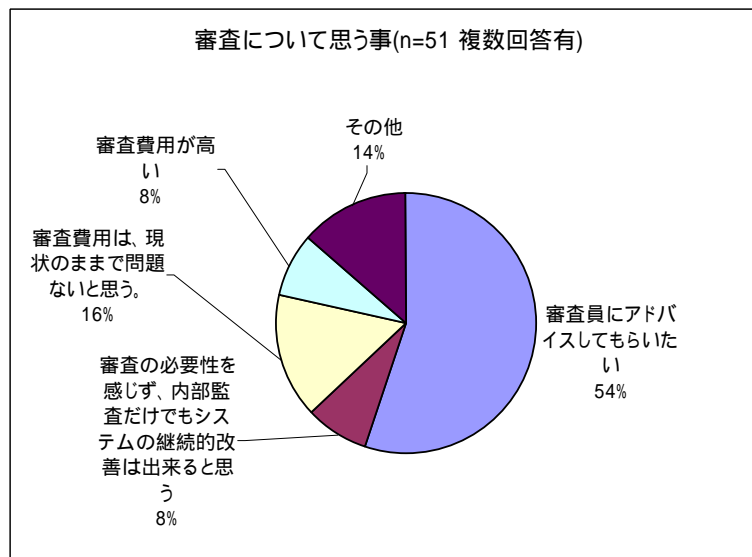


図 4-25 審査について思うこと

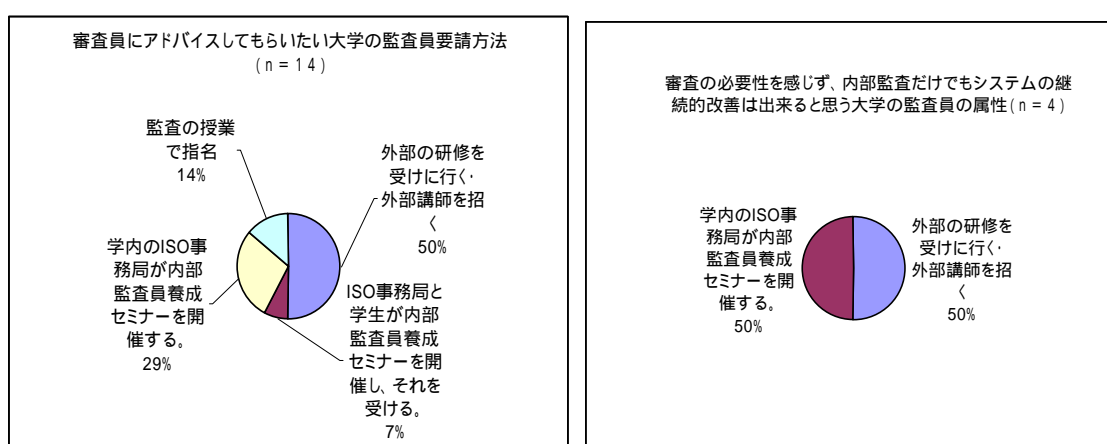
図 4-25 より審査員にアドバイスしてもらいたいのが 54% と一番多く、「審査費用は現状のままで問題ないと思う」が 16%、一方「審査費用が高い」が 8% で「審査の必要性を感じず、内部監査だけでもシステムの継続的改善はできると思う」が 8% である事がわかった。

その他の記述欄には以下の意見があった。

- ・外部審査担当者が、大学の運営及び意志決定システム等を理解していない。一般の企業と大学組織を同一視している。
- ・外部審査により評価を受けることは継続的改善を維持するには必要である。
- ・認証取得をするのであれば、審査委員のアドバイスは必要であるが、認証取得を継続しないのであれば不要

まず、「審査員にアドバイスしてもらいたい」「審査の必要性を感じず、内部監査だけでもシステムの継続的改善はできると思う」の結果に関して述べる。

「審査員にアドバイスしてもらいたい」と回答した大学を「審査に頼りたい大学」として、「審査の必要性を感じず、内部監査だけでもシステムの継続的改善はできると思う」と回答した大学を「審査に頼らない大学」として捉え、両大学の違いを見つけるために「内部監査員要請方法」「監査員の属性」を比較した。その結果を図 4-26～図 4-27 に示す。まず、「内部監査員要請方法」について比較した。

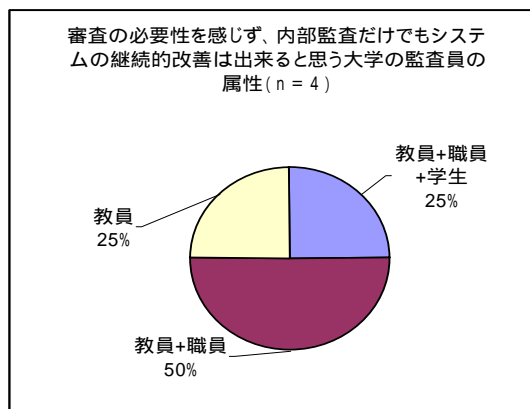
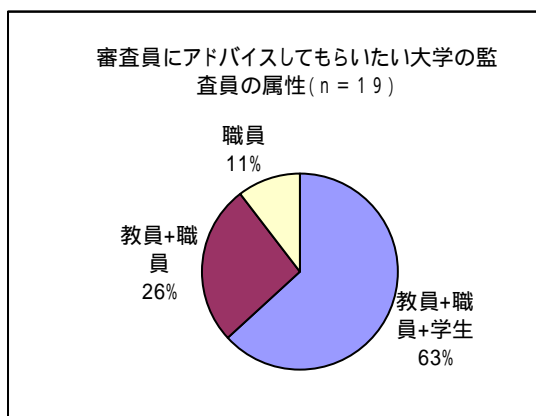


左 図 4-26 審査員にアドバイスしてもらいたい大学の監査員要請方法

右 図 4-27 審査に必要性を感じず、内部監査だけでもシステムの継続的改善は出来ると思う大学の監査員要請方法

どちらも、「外部組織に任せる」と「自分たちで養成する」が約半数ずつに分かれ、特に大きな違いは見られなかった。

次に、「監査員の属性」について比較した。図 4-28 に「審査員にアドバイスしてもらいたい大学の監査員の属性」を、図 4-29 に「審査に必要性を感じず、内部監査だけでもシステムの継続的改善は出来ると思う大学の監査員の属性」を示す。



左 図 4-28 審査員にアドバイスしてもらいたい大学の監査員の属性

右 図 4-29 審査に必要性を感じず、内部監査だけでもシステムの継続的改善は出来ると思う大学の監査員の属性

審査員にアドバイスしてもらいたい大学と、審査の必要性を感じず内部監査だけでもシステムの継続的改善は出来ると思う大学の監査員の属性で大きく違う事は「監査員に学生が含まれるか否か」である事がわかった。

次に、「審査費用は現状のままで問題ないと思う」と「審査費用が高い」について述べる。それぞれの回答大学の審査費用を比較したものを図 4-30、図 4-31 に示す。

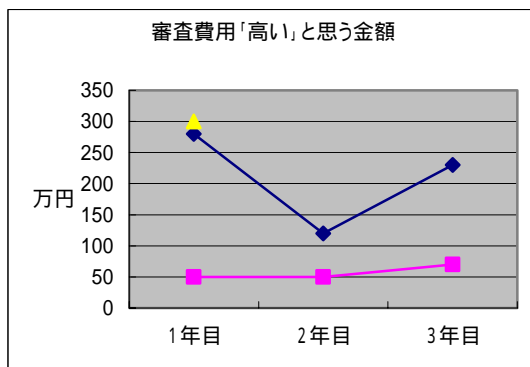
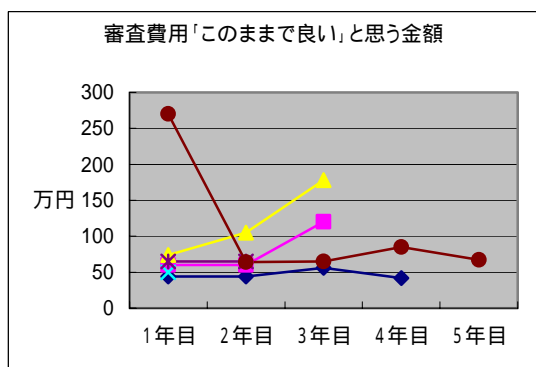


図 4-30 審査費用「このままで良い」と思う金額

図 4-31 審査費用「高い」と思う金額

図 4-30 と図 4-31 より、

このままで良いと思う金額は、平均 78.45 万円/年、高いと思う金額は、平均 188.89 万円/年である事がわかった。

「このままで良い」と思う大学の中には、「高い」と思っている大学よりも金額が高い大学もあった。これは、「審査費用を必要経費」として認識している、つまり「お金を払って認証登録をしている」と捉えている事が考えられ、問題であると言える。大学は審査機関にお

金を払っているのでは本来は「お客様」という立場であるべきだが、実際は審査員の方が立場が上で、審査に通してもらう事が目的になってしまっている現状がある」と、ある審査員の方への聞き取り結果が浮き彫りになった。

高額な費用を払う代わりに、大学 EMS の継続的改善により貢献する審査機関（審査員）を選ぶ姿勢も必要ではないかと考える。その他の記述欄にあるような「外部審査担当者が、大学の運営及び意志決定システム等を理解していない。一般の企業と大学組織を同一視している。」事は、あまり好ましい状況ではない。

今後は、大学に限らずこのような視点を持った組織が増えることで審査機関の発展も期待したいと思う。

#### 4.4.5 コンサルタント利用状況

アンケート調査によって得られたコンサルタント利用状況(利用料金)を図 4-32 に示す。

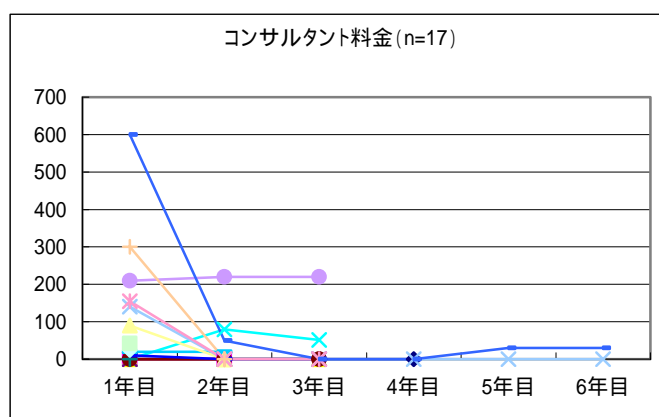


図 4-32 コンサルタント利用状況

図 4-32 より、コンサルタントなしの大学が 35%と一番多く、2年目にコンサルタントを利用しなくなる大学が 23%、コンサルタントに一定の料金を払い続ける大学・2年目から減額する大学が 12%、2年目から利用する大学が 6%である事がわかった。コンサルタント料金が1年目のみのデータしかなかった大学は 12%あった。

活動を継続的に改善させるために、コンサルタントを利用する大学は多いと考えていたが、意外とコンサルタントを利用している大学が少なかった。又、利用したとしても2年目から減額する大学が多い事より、費用面の問題も考えられるが、自ら EMS を継続的に改善する姿勢の大学が多い事がわかった。



#### 4.5 まとめ

第四章の予想と結果の関係をまとめた表を表4-3に示す。

表4-3 費用（審査費用・認証取得までの費用・コンサルタント利用状況）の予想と結果の関係まとめ

大分類	項目	予想	結果	回答数	予想と結果の関係
認証取得までに要した費用	大学の属性別に見た費用	理系の大学が文系の大学より多い	・事務局のみでの認証取得をした大学 70万円 ・文型学部のみ有る大学 100万円～1500万円 ・理系学部のみある大学 150万円～1500万円 ・総合大学(文型学部と理系学部両方ある大学) 200万円～550万円	20	不一致
	学生の位置づけ別に見た費用	全て学生を構成員に含める大学が最も高い	・全ての学生を構成員としている大学 160万円・1500万円 ・全ての学生が構成員でも準構成員でもないとしている大学 70万円～750万円 ・全ての学生を準構成員とする大学 100万円～1500万円	20	一致
	審査機関別に見た費用	審査機関により、値段設定の平均金額の高低がある	コンサルタント費用が不明である事と同じ審査機関でも各大学によって費用が様々であった	20	不一致
審査について	大学の属性別に見た審査費用	理系の大学が文系の大学より多い	理系学部のみ大学 :30万円～160万円 文系学部のみ大学 :40万円～300万円 総合大学 :36万円～280万円	19	不一致
	学生の位置づけ別に見た審査費用	全て学生を構成員に含める大学が最も高い 「全ての学生が準構成員の大学」より「一部の学生が構成員の大学」の方が高い 学生を構成員・準構成員に含めない大学が最も安い	・全ての学生が構成員」の大学と「全ての学生が準構成員」にあまり差が見られなかった。 ・「全ての学生が準構成員」の大学より「一部の学生が構成員」の方が安い ・全ての学生が構成員でも準構成員でもない」が一番安い (費用詳細) ・全ての学生が構成員 60～300万円 ・全ての学生が準構成員 40～280万円 ・全ての学生が構成員でも準構成員でもない 40～200万円	19	不一致 不一致 一致
	学生を構成員に入れるか否かでどの程度審査費用が違ってくるのか(想定大学で比較)	学生数に審査費用が比例する	・審査費用は学生数に比例しない(詳細) ・A大学(学生数2000人職員数200人) 学生を構成員に含める事で構成員数が約10倍、審査費用は1.3倍 ・B大学(学生数54000人職員数6000人) 学生を構成員に含める事で構成員が約11倍、審査費用は1.3倍		不一致
	審査機関別に見た審査費用	審査機関により、値段設定の平均金額の高低がある	・認証期間ごとに費用をみると、ほぼ審査機関によって大きなずれが見られない。サンプルの数が十分ではないデータも含まれるが、審査費用は審査機関によってある程度違いが生じる事が言える。	19	一致
	審査について思うこと	審査の必要性を感じず、内部監査だけでもシステムの継続的改善は出来るの回答が多い	・審査員にアドバイスしてもらいたい が54% ・審査費用は現状のまま問題ないと思う 16% ・審査費用が高い 8% ・審査の必要性を感じず、内部監査だけでもシステムの	30	不一致
	コンサルタント利用状況	活動を継続的に改善させるために、コンサルタントを利用する大学は多い	・コンサルタントなしの大学 35% ・2年目にコンサルタントを利用しなくなる大学 23% ・コンサルタントに一定の料金を払い続ける大学 12% ・2年目から減額する大学 12% ・2年目から利用する大学 6%	17	不一致

#### < 予想と結果が不一致である項目に対して >

予想と結果が不一致であった項目は72.7%（予想項目8/不一致項目11）であった。

一致していた項目の傾向は人数との関係で両極端の場合（人数が最も少ない場合は費用が最も少ない等）である。一方、不一致であった項目のほとんどが、審査の仕組みや現場の現状等に対する肥田の知識不足が原因である事が考えられる。